

小美玉市の歴史を知ろう40

歌に詠まれた筑波山——万葉集を例に——

「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す」

平成の次の元号である「令和」の典拠は、『万葉集』巻五「梅花の歌三十二首」。新元号選定にあたり、「初春の——」序文から引用されました。

『万葉集』は、奈良時代末期に成立したとされる、現存する日本最古の歌集です。大伴家持が編纂に関わったとされ、天皇、貴族だけでなく下級官人や防人など、さまざまな身分の人が詠んだ歌が四五〇〇首以上収録されています。

全三十巻からなる『万葉集』ですが、このなかには筑波（山）を詠んだ歌が合計二十五首収録されています。「西の富士、東の筑波」という言葉がありますが、富士（山）を詠んだ歌が合計十一首に対し、筑波のそれは倍以上の数が挙げられます。

ここで、筑波山を詠んだ歌のなかから一首ご紹介したいと思います。

鶏が鳴く 東の国に 高山は 多にあれども 朋神の 貴き山の
並み立ちの 見が欲し山と 神代より 人の言ひつぎ 国
見する 筑波の山を 冬ごもり 時じき時と 見ずて行かば
まして恋しき 雪解する 山道すらを なつみぞわが来し

（巻三 丹比真人国人）

〔口語訳〕（鶏が鳴く）東の国に、高い山は数多くあるけれども、男神と女神がいます。貴い山が並び立つさまを見て、見事な山だと神代の昔から言い伝えられてきて国見をする筑波の山を、今はまだ冬で国見をする時期ではないからと見ずに行ってしまうと、故郷にいた時よりも恋しさが増すだろうと、雪解けの道を苦勞してやって来たのだ。

有名な筑波山に登らないで帰ることは出来ないということ、今はまだ登る時期ではないが、無理して登ってきた旨を詠んだ歌ですが、男体山と女体山の二峰に祀られている二柱の神（男神の貴き山）、男体山と女体山が並立するようす（並み立ちの——）など、筑波山をよく表した箇所もみられます。この歌を詠んだ丹比真人国人は、天平八年（七三六）従五位下に叙任され、天平宝字元年（七五七）遠江守となりますが、同年七月に起こった橘奈良麻呂の変に連座したとして、遠江守の官職剥奪のち伊豆国へ流刑に処されました。

「紫峰」、「筑波嶺」などと称して親しまれ、信仰の山としても知られてきた筑波山は、花の咲く春、木の葉が色づく秋、男女が手を取り合って筑波の山に登り、遊び楽しみながら歌をやりとりする嬬歌が行われたと『常陸国風土記』にみることが出来ます。



棚一枚でもお気軽にどうぞ!

株式会社 **笹光建設**

〒311-3416 茨城県小美玉市与沢253-37

TEL 0299-54-0618 FAX 0299-54-0421

www.sasamitsu.co.jp/

ささみつ

検索

新築/増改築/小さなリフォームなど

外壁・屋根…うちもそろそろかな…?

色々なところから営業が…
どこに頼めばいいの…?

そんなあなたも
お気軽にご相談下さい!
外装点検・お見積り無料



一級塗装技能士による住まいの塗り替え

(有)中嶋塗装工業

茨城県知事許可

第31532号

本社 石岡市半ノ木14159-5

中嶋塗装

検索

TFL0299-57-1641